

一人残らずマグロにして

大好きなあの子達を壊したCG集

アブリュート
maguro マグロ
Exceed

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

セックスの道具だ！

st1. 終焉の狼煙

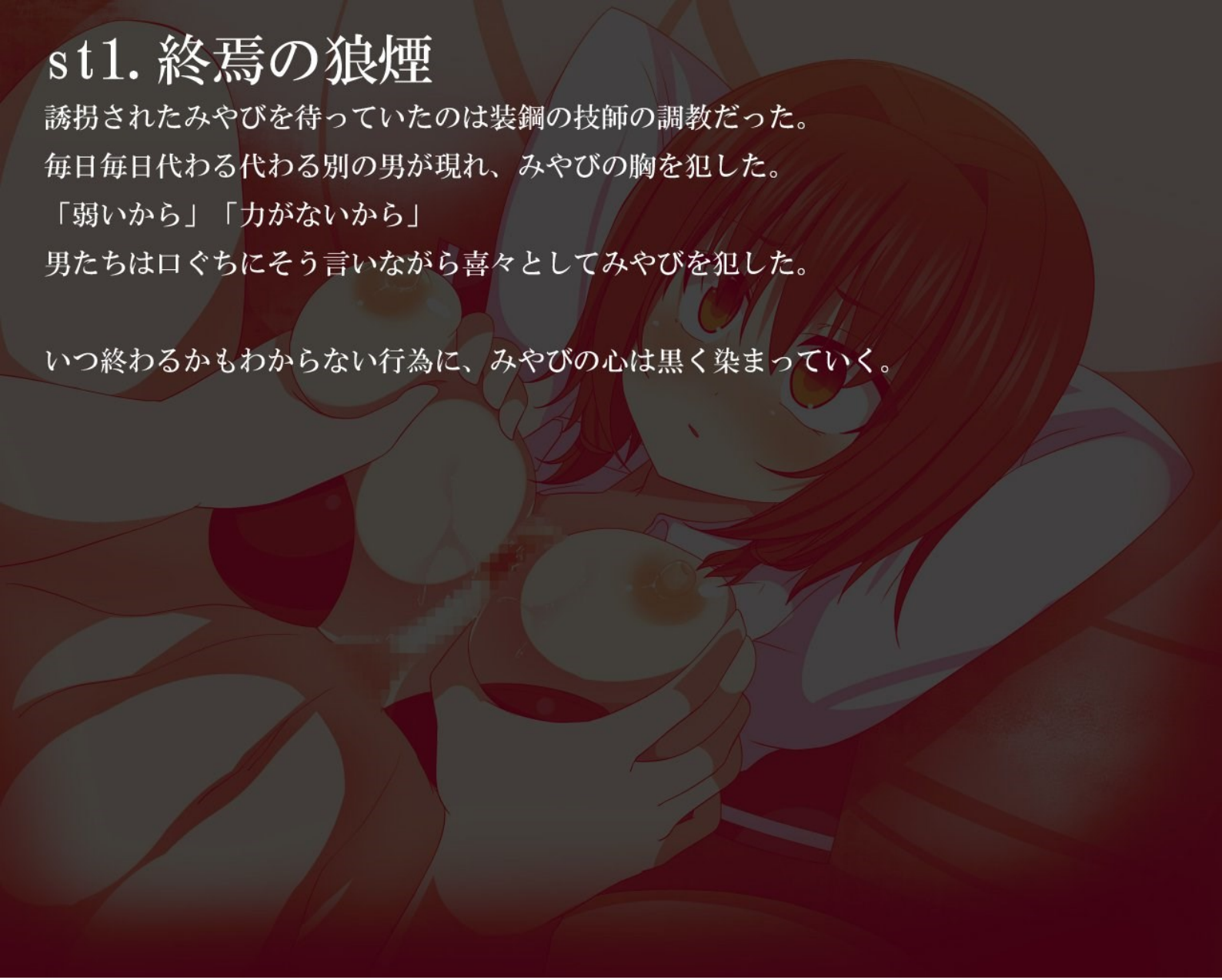
誘拐されたみやびを待っていたのは装鋼の技師の調教だった。

毎日毎日代わる代わる別の男が現れ、みやびの胸を犯した。

「弱いから」「力がないから」

男たちは口ぐちにそう言いながら喜々としてみやびを犯した。

いつ終わるかもわからない行為に、みやびの心は黒く染まっていく。





「あら、雑魚は雑魚らしく言えやがれどしてはばいらんだわー。」

「あ、ひいーやめてください……！」

ムニッ

しび

ぽろ



「お、おおっ……やはりサイズがでかいと違うな……
ち○こが完全に包みこまれちまっ」

「い、いたいっ……乱暴にしないで……」

ぽんぽん

ぐんぐん

ぐんぐん

「うるせーな、乳しか能がないんだからおとなしくしてろ！
無能なおまえを俺達が拾って使ってやってるんだ。
少しは感謝しろよ」

「ひどい…私だって好きでこんなになっただんじゃ…っつう」



「力がない奴は犯されて当然なんだよっ！
くっっ、乳ま○りてEN……っー」

「えっきゃああーいきなり……！
うええ汚いよう……もうやだ……」



「うえっ、ひくっ……ひくっ……！」

「誰か…助けてえ…」

「誰も助けになんざこねえんだよ！」

「ひひひ、しばらくは楽しめそうだな」

ド

ひくっ

ひくっ

（まだ甘い。もっともっと力への執着を高めなくてはな
二度と戻れない位の黒い感情を育てるのだ…）

st.2 ただ真っ直ぐな剣

みやびが誘拐された原因の一端を自分が担っている

伊万里は一人で島の探索を開始する。

慢心はなかった。分校の中でも実力は上位の方だ。

しかし伊万里を待ち受けていたのは装機兵の奇襲だった。

剣と銃では決定的に相性が悪く、伊万里は敗北してしまう…



「あーっ！あーっ！」

「くっ、くっ、くっ、くっ、くっ」

「焔牙使っているのは自分が強いと思ってやがる。身の程を覚えてやるぜ」

「まあそのおかげでメスも拾えたり、ラッキーだぜ」

アッ
アッ
アッ

しゅっ

しゅっ



「いっせいで……貴方たち、みゃびを……！」
あつ、……(……)」

「みゃび……知らねえな……」

「俺たちは……お前の警備を……」

「まあそのおかげでメスも拾えたり、
ラッキーだぜ」

ほん

ほん

ほん



「うっ、あっ……んんんっ……」

「残念ながら嬢ちゃんはこれで終わりだ。

こんないい身体手放す理由は、ないからなっ」

ムニッ

ぽんっ

ぽんっ

「なーに分校の雑魚なんてそもそもリストにすら入ってない俺らが飼育してきつちり仕込んでやる」



「気が強そうだから釘を刺しとらしてやる
俺らは警備隊だが、やたらと思えはらうてえも
襲撃許可は出てるんだ。」

おまえの学校の女どもをいっつも殺せるんだよ」

セッ

☆

ムッ

「まあそれも嬢ちゃん次第だな。」

おとなしくやらせてくれれば見逃してあげよう。

ただし変な真似をしたら…」

「はっ はっ はっ……あ……あ……あ……」

ムッ
ムッ
ムッ



st.3 理不尽への抵抗

突如リベールスが学園に押し寄せてきた。

その先陣を務めていたのはみやびとKだった。

巴は説得してみせるとみやびと一対一で対峙する。

必死に説得をするも、彼女の声も、想いも届くことはなかった。

敗北する巴。そこに隠れて戦いの様子をうかがっていた生徒をみやびがを見つけ…



「あはは、いい気味だね巴ちゃん
通りすがりの男のち○ぽしゃぶらされちゃってさ
本当に滑稽」

「んぐっ…んぐらっ…むらっ…」

ドブ

「す、すすすす…すすすす…すすすす…」



「私ね、強くなってわかったの
力さえあれば何でも許されるって…
どんな理不尽だって押し返せる」

「す、すすすすす…すすすすす…」

おっ

おっ



「監禁されてるときにね、私にヒドイことした男の人たち
みんな殺しちゃったんだあ！でも仕方ないよね
弱いものは強いものに従うしかないんだから」

「みやびっ…んっ…んっ…んっ…んっ…んっ…んっ…んっ…んっ…んっ…んっ…」

ちゅっ

ちゅっ

ニッコ

「あっ、あっ、あっのっ…気持ちはいい…！
っっ、っっ、っっ、っっ…」

グッ
グッ

「…わかってるよね？」

口の中に全部出すんだよ？」

理想だけは一流でよわよわな巴ちゃんのおくちに
きつたない精液をいっっぱい流し込むんだよ？」

「ひっ！口の中に出しますっ！
すいません！すいませんっイクっ……！」

くっ

くっ

じゅぽっ



「んんんんんー」

「おあつ…あゝ…美少女のフェラ最高…お…
っ…すげません…あつあ…っ」

カ

びゅん

びゅん

「あはははは！短小早漏の〇ほでもいつぱい出たねえ
そんなに凹ちゃんのおくちがよかったの？」

ほらほら、全部飲んでよ」

カ





「はあ、はあ…ぼ、勃起が止まらない…
もつと、もつと出したい…っ」

「んん…んん…んん…んん…んん…」

ガッ

ガッ

「うわあ、おさるさんになっちゃったみたいね
巴ちゃんの体は好きに使っていいよ？
生でもお尻でも、とにかく犯しちゃってよ
私が横で見せてあげるから…
ち○ほギンギンにして犯さないとだめだからね」

st.4 揃わないピース

Kとの戦いに臨むユリエと透流。

結果は勝負にすらならなかった。

透流はブレイズを破壊され、気を失ってしまう。

ユリエの真の力と、その対策をKは熟知していた。

味方は、来ない…いつものメンバーが揃うことは、もうなかった。





「これで、終わりです…ふんっ！」



「くっ。流石に身体が小さいと穴もキツイですね…
これを使い放題になると思うと感慨深い…
どんな絆も理不尽な力で押しつぶされる、**犯される!**」

「ギ、ヒィッ…あぁうっ…」

「彼が必死に守ろうとした貴方も、ち○ぽを締めあげて、見知らぬ男の精液を絞り取るだけの穴でしかないんですよほら、孕みなさい…ユリエ・シグトウーナツ！くうっ！」

「あああああつ！嫌、嫌あああつ！
あああつあああああ……っ！」





「お、おうふっ…！なんという締め付けだ…！
こんなに出るのは本当に久しぶりですよ
おおおおおっ……」

st.5 落陽

学園は完全に装鋼の技師の支配下に置かれた。

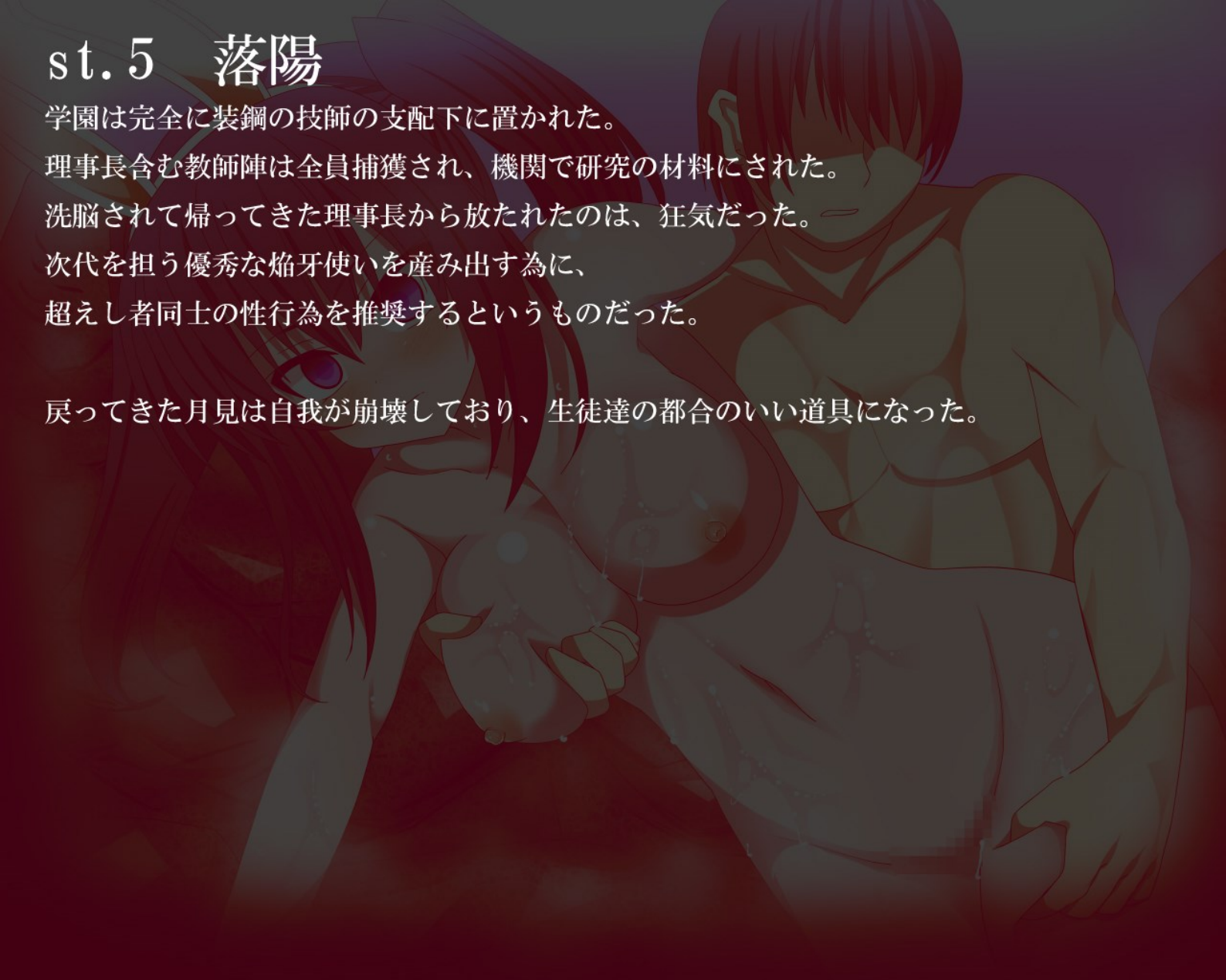
理事長含む教師陣は全員捕獲され、機関で研究の材料にされた。

洗脳されて帰ってきた理事長から放たれたのは、狂気だった。

次代を担う優秀な焔牙使いを産み出す為に、

超えし者同士の性行為を推奨するというものだった。

戻ってきた月見は自我が崩壊しており、生徒達の都合のいい道具になった。





「はっ、はあっ...」

「うさ先生っ、気持ちいい...」

「クラスメイトとは違う良さがあるよな...」

Aa

Aa



「あっ、はっ…」

「確かに最初は怖かったけど
蓋を開けてみたらセックスパラダイス
俺は今の学園が大好きなんすよ」

アッ

アッ



「なんせ絶対に手が届かないような女にも
こうしてフチこめるんすからねえ…
おおっ…締まるん…」



「.....」

「.....」

ドク

ドク

st.6 特別であること

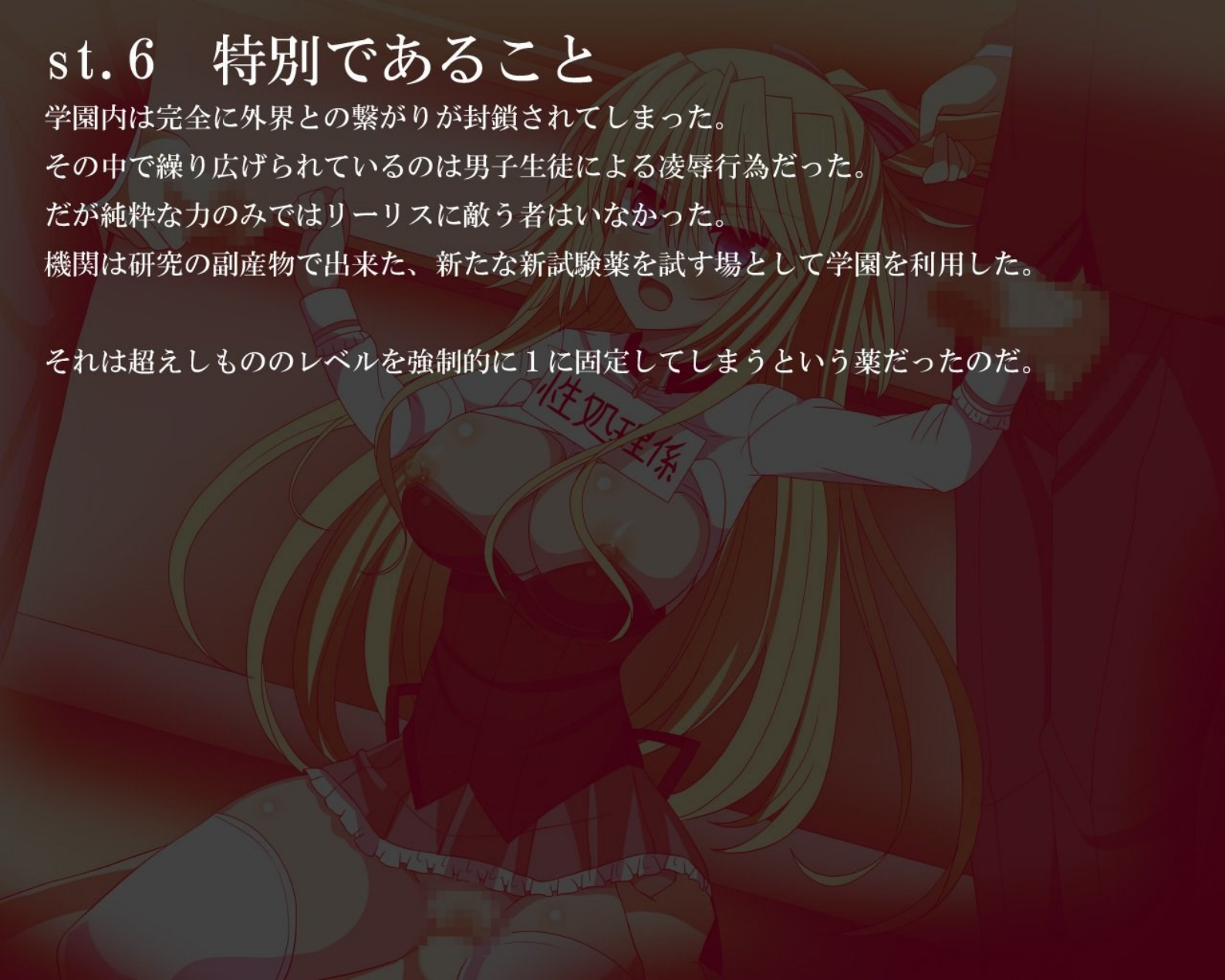
学園内は完全に外界との繋がりが封鎖されてしまった。

その中で繰り広げられているのは男子生徒による凌辱行為だった。

だが純粋な力のみではリリースに敵う者はいなかった。

機関は研究の副産物で出来た、新たな新試験薬を試す場として学園を利用した。

それは超えしもののレベルを強制的に1に固定してしまうという薬だったのだ。



「くああっ！あんた達、こんなこといつまで……！
あうっ、はあっ……」

「おまえの身体と飽きるまでだよ！
さんざんコケとしゃがんで、思い知らせてやるよ！」

性奴隷係

アキ

アキ





「どいつもこいつもバカみたいに盛って…あぐっ…！
普段なら絶対に負けないのにっ…！」

「うるせえな！今こりやっつてフチこまれてるだろ
おまえは俺ら以下のクズになり果てたんだよ！」

「ああっ、あのリーリスを肉便器に出来るなんて…！」

いっ
いっ

グイッ

アッ

アッ



「なんだなんだ！ 具合よかき……！」

「え、嘘おつ！ きゃあああ！ 何勝手に中に出してんのよ！ ふざけんなあ！」

「おお、すげえ淫ぎ込んでるな
こいつは妊娠しちゃったかも？
まあ妊娠しても身体は使うけどな」

クッ
クッ

「くうっ…お嬢様にぶっかけ…！」

「おら、身体にもたっぷりかけてやる
受け取れ！」



「ちよっ、そんな全身にかけるな！
においが取れなくなっちゃうら…！」

びしょ

びしょ

「今に見てなさいよ

こんな状況は絶対おかしい…

あんた達にも必ず報いが訪れるわよ…！」

「しらねーよ！

おらっ、ケツを突き出せ！

今度は俺が中出しキめてやる！」

性奴隷係

ゴッ





「俺は気の強さも好きだったんだがね
まあいいか、ほら挟め」

「ごっつもすっかりおとなしくなっちゃって
まあやることはやるからいいんすけどね」

ずい

じゅ

しゅ



「よしよしい子だな伊万里
大分うまくなってきたな」

「あう...ありがう...」

「...いっけい...」

「本隊の襲撃も大成功だったらしいぜ
たんまり女どもも手に入ったってよ」

「おお、それはいいな

「この分校の女も大分食い飽きてきたしな」

むにゅっ

むにゅっ

「F...」



「ほんと身体は優秀すね…かけるぞー！」

「おののの…おののの…」
「おのののが悲しそうなの顔をこわしてはダメだ…おののの…」

グッ

グッ
グッ

「……………」

「おい、どうした」

「動きが止まっちゃまったぞ」

「…ドゥッ…」

「あーさっきの話題がまずかったか
微妙にまだ思考能力が残ってるんだらうな」

「私…何のためか…」



「おーおー心配すんな
友達だつて誰ひとり危険な目にあつてねーよ
みんな一緒だ」

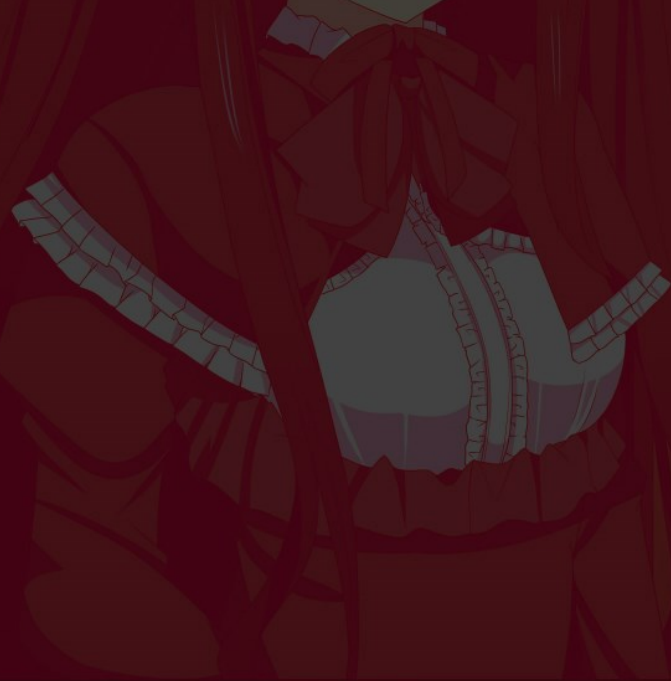
「うん……」

「みんな一緒ねえ……そっか……ひひひ」

st.8 禁断の果実

性に解放的になった生徒達は留まることを知らず、
ついに理事長である朔夜で性処理をしたがるものが現れた。
あくまで焔牙使いを対象とするルールすら機能しなくなってきているのだ。
一匹の獣が理事長室に押し掛けてきた。

そこに居るのは紛れもなく魔女であり、触れる事は危険を意味する。



「?理事長室に何か御用でも?」

「?り、りぢちょう……ヤラせてくれよ……
口で抜いてくれるだけでいいからさ……頼むよ……」



「性欲処理なら学園に女の子たちがいるでしょう
いついかなる時も、私はそれを止める事は致しませんわ。」

「ちげえよ！あんたにヌイてもらいてえんだよ！
く、くそつ、我慢できねえ…！」



「……」

く
い

「まあ、急に押し付けてくるとは……言葉が通じないのですか？
私のような小さい女の子でガチガチに固くして
男として恥ずかしくはないのですか？」





「お前さん、お尻の毛を抜いてあげるよ〜」

にげにげ

にげにげ

「んぐう〜? んん〜...」

んぐう



「ほっ、ほっ、よかった、よかったと……
この小さい口を犯したかったんだよね……ああああっ！」



「...のさすっ」

びよっ

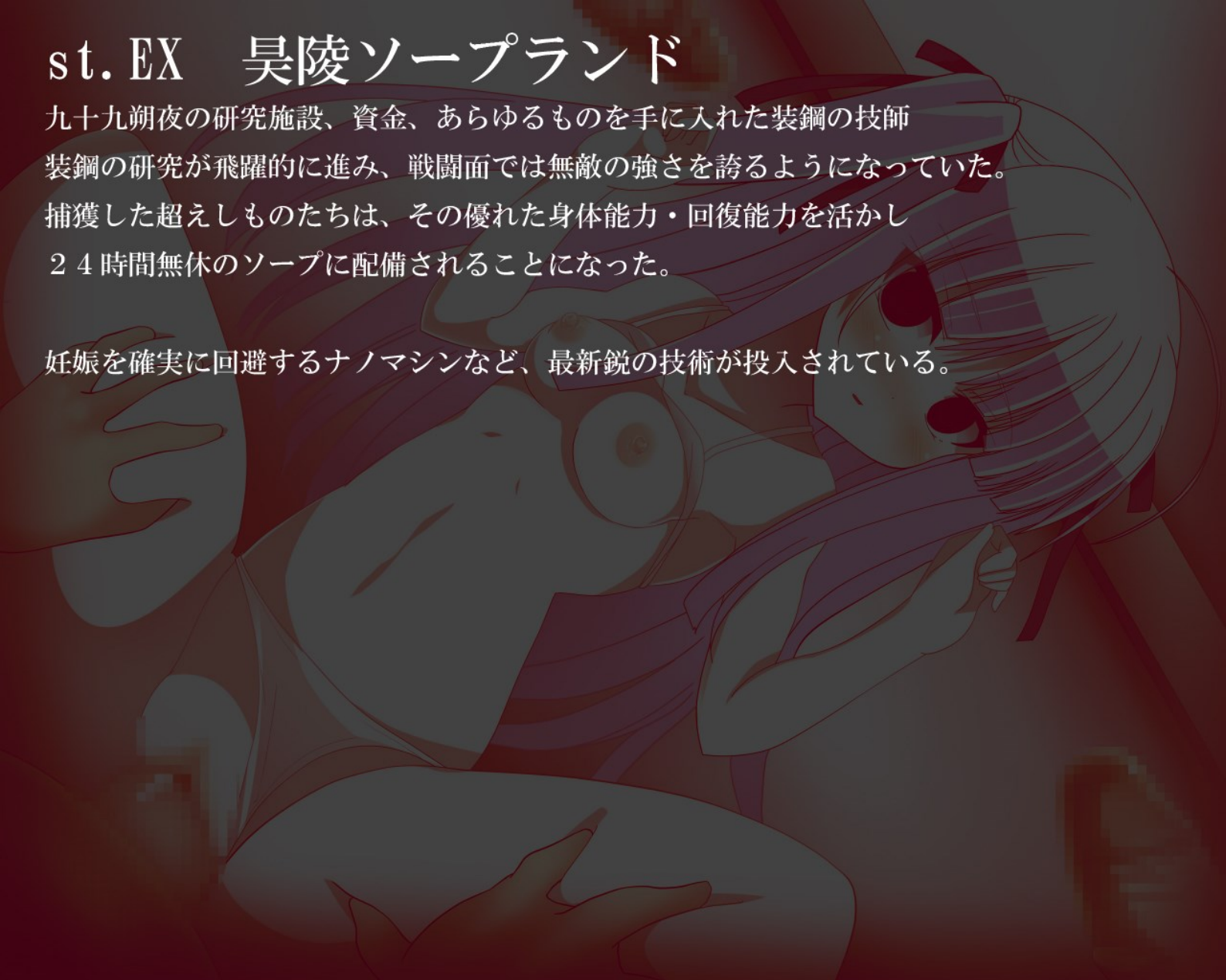
びよっ

「お、おあああッ！おっ、オオ...！おおおおっ...っ！」

st. EX 昊陵ソープランド

九十九朔夜の研究施設、資金、あらゆるものを手に入れた装鋼の技師
装鋼の研究が飛躍的に進み、戦闘面では無敵の強さを誇るようになっていた。
捕獲した超えしものたちは、その優れた身体能力・回復能力を活かし
24時間無休のソープに配備されることになった。

妊娠を確実に回避するナノマシンなど、最新鋭の技術が投入されている。







「へんっ……あの最近のインクローも使われさへなして
やっふふ田んやんをさっしゅんさっしゅん」
「相変わらずおっぱいは一度いいサイズだな……ちゅるるる」

ちゅっ

んっ

ちゅっ

んっ



「あんなに可愛いわね、おっぱいも」

「あんなに可愛いわね、おっぱいも」

弄

弄

弄





「あつ…ああああ…」

「んぐっんぐっ…！本当にナノマシンってすごいな
なんでも出来ちゃうんだな」

「本当に科学の進歩には感謝だねえっ…！
巴ちゃん、中に出すからねっ」

アツ

アツ

アツ

ぷっ

「くおっ……おとおおっ！
孕めっ、孕めえ……！」

「おいおいこいつらは孕まないって知ってるだろ？
まさに中出しセックスの為に作られた存在だよ」

「まあ気分的に言いたくなってしまうんだよね…
またくるよー」



「あ、うおお〜……！」

「いやーまあかあのみやびちゃん、うんきる回が来るなごてなあ……！
あこの回はお世話とならまじうたー！」

ぬ
りん
ん





「あーあああ、んっ……」

「結局どんな女もただの穴になり下がっちゃうんスねえ……
あんなに強くて、怖かったのに
今ではただの肉の塊にしか思えませんわ」

ぐ
ぽっ

く
うっ

「はあ、はあ…出たあ…
さーて次は誰としますかねえ…」



「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「財界のお嬢様も今ではただの肉穴ですか
いやあ良い世の中になったもんだ」

「本当ですな！

少し金を出せば若くて極上の女が抱き放題…
反応があまりないのがたまにキズですが」

あ
い

ア
ア

ア
ア



「こいつは乗馬の要領をしっかりとリズミカルに...
ふんっふんっ...」

「あっ...あぁ...あん...」

「おお、反応があった
しかしだらしない乳ですなあ...」



「幼いころからいろいろものを食ってきてきた証だよ
その積み重ねでこんなだらだらしい身体に育ったんでしょっかね」

「ははは、」

「そうして育った身体を味わえる…ああ、気持ちいい」





「おおっ…これだけスタイルがいいと
それだけで周囲の男を勃起させますからね
さながらセックスを誘うために産まれてきた女ですよ」とは

「んんっ…ふっ…あっ…あん…あ…」

びんぽう

びんぽう

「ほら、栄養価たっぷりの中出しザーメンだーうおおっ！
肉棒全体がしゃぶられるっ……！」

「見てくださいこの嬉しそうな顔

セックスしてれば悩みもなく楽しく暮らせる

この子は今幸せなんでしょうね」

びしょびしょ





「やうと順番が回ってきた……
いれるぞー……」

「あう……トール……大きいです……」

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぎゅん

ぎゅん

「?」

我々を意中の男性と勘違いしているのか?」

「ユリエちゃんはそういう仕様だからね
完全にぶっ壊れてますよ!」

「おらあーその胸に栄養をくれてやる!」



「あんなムカつく相手。
トールを食ってっつておんなじように、
頑張ります…」

「ああっ、膣内はぎゅぎゅに締めつけて、
んんん…
そのトール君ってのは今どうしてるんですかね？」

「さあ、行方不明になったと聞きましたよ
まあもう普通の生活には戻れないでしょう」

星

星





「トールが行方不明…？」

トールは、どこにいったの…？」

「…うんうん
うんうん…」

うんうん

うんうん



「はあ、はあ…気持ちよかった…
何度使ってもゆるくならないから最高……」

「我々のような特殊な性癖を満たせるのはこの子だけですからな
本当はもう一人いたはずなのですが…」

「ああ、あれは味わえないだろうね
何せあの方のお気に入りだからな…」

ゴキッ



st. END

装鋼の技師が全てを手に入れるのも時間の問題だった。
仇敵もマインドコントロールにより従順な手ごまにした。
過去に自分を打ち負かした九十九博士の娘である九十九朔夜。
妬みや劣等感、それらの負の感情は、強烈な性的欲求に変換された。
既にほとんど枯れていた性欲はマグマのように湧きあがるが、朔夜でしか発散できない
次第に研究も中々手がつかなくなり、朔夜の身体のみしか考えられなくなっていった。
年齢による体力の低下も考えず、狂ったように貪り続けた。
そう、狂っていた。もしかしたら、狂わされたのかもしれない。

洗脳で作った従順な肉人形。目に見えない刃は、のど元まで迫っていた。



「おじいさま、情けないですわよ

したいと誘ってきたのは貴方ではありませんんこと?」

アハ

アハ

アハ

アハ

「はあ、はあ、朔夜あ…ああ!
気持ちいいぞぞお……!」

「うふふ…おじいさまは
私でしか勃起できない可哀想な御方ですから
たっぷりご奉仕させて頂きますわ…」

「おおっ、くふっ…
凄いきつキツで、おおっ、あああ…！」





「あら？私の中でおじい様のがパンパンに膨らんでいきますよ？
今日はまだ口で十発は抜いたのに、また出ちゃうんですの？」

「あがアッ……がああッ……」おお、おおお？！
「でる、でるぞお！」

「あ～…♪一体どこにこれだけ隠し持っていたんですか
もうよぼよぼでしおしおかと思っただのに…」

「くうっ！ああああッ！キツキツ人形ま〇こ…！
朔夜ま〇こにまだ出る…！」

ドクドク
ドクドク





「ああああ…っおじいさま、すごい量ですわ…
もっともっと、絞ってあげますね…」

まじ
ピン
んん



「アガッ……」

「……ッ……」

「おじいさま……大丈夫ですか？」

「おじいさまが大好きな私のきつきつろりま○こ」

「まだ孕んでいませぬことよ……ほら……締めますわよ……」

セツ!

クッ

セツ!

ドッ

ドッ



あとがき

どうも！須藤廉司です。
今回はアブソ一本！久しぶりのアニメ一本ものとなりました。
本当にキャラが可愛くて、可愛くて…
中でも一番のお気に入りには…言わなくてもわかりますね？

朔夜ちゃんとは今後ともどうにかなりたいです。
エクイPMENTスミスは犠牲になったのだ……

次回はまたいつも通り平常運転。
よろずや”いつもの”になると思います。
毎度発売が唐突だったり伸びたり間に合わなかったり月末だったり
いい加減なサークルですが、今後ともごひいき頂ければ幸いです。
またお逢いできる日を心待ちにしております。

2015 ストレンジビースト 須藤廉司